

しゃらりん

14

2007/6



あなたと私の間には
広く深い海がある

その海は荒れ

怒濤の渦を巻き

決して

人を寄せ付けない

しかし

その中を悠々と渡る

大きな船がある

その船の名を

念仏という

その船に乗って

あなたに遇いに行こう

目次

contents

同朋大会レポート	3
親鸞の鼓動・五 「後序」と承元の法難	6
シリーズ・聞く ボランティア講座	8
子どもたちとやってみよう／Booksしゃらりん堂	10
アトリエしゃらりん	11
ちょっと行こか／しゃらりんちゃん	12

遇

文 廣瀬 俊
書 畠中幸代

形声。意符の走(みち)と、音符の禺(たま)と、思いがけずの意(偶)とから成る。思いがけずに道でたまたま会う意

『大字源』より

同朋大会ニュース 第三号

2007年5月19日に行われました第37回大阪教区同朋大会は、2414人のご参加をいただき、盛会裏に無事終了いたしました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

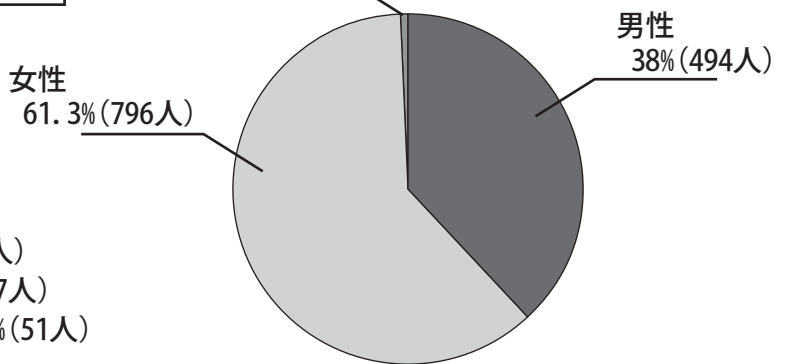
ここでは、当日行いました参加者へのアンケートの集計をお知らせいたします。アンケート回収数は1299。回収率は53.9パーセントでした。

今後同朋大会実行委員会では、大会の記録冊子を参加者のみなさんへ配布する予定です。

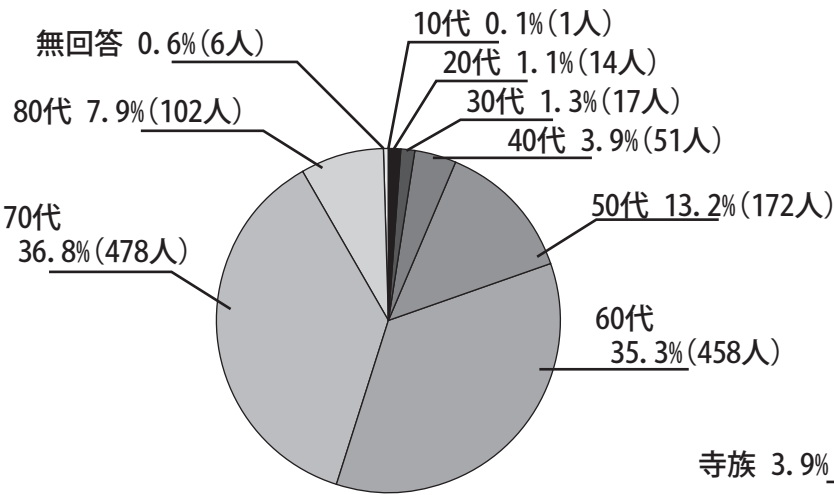
また、大会で上映された組同朋大会を紹介するスライドを、DVDにして各組へ1枚ずつお配りいたします。

アンケート回収数(1,299通)の内訳

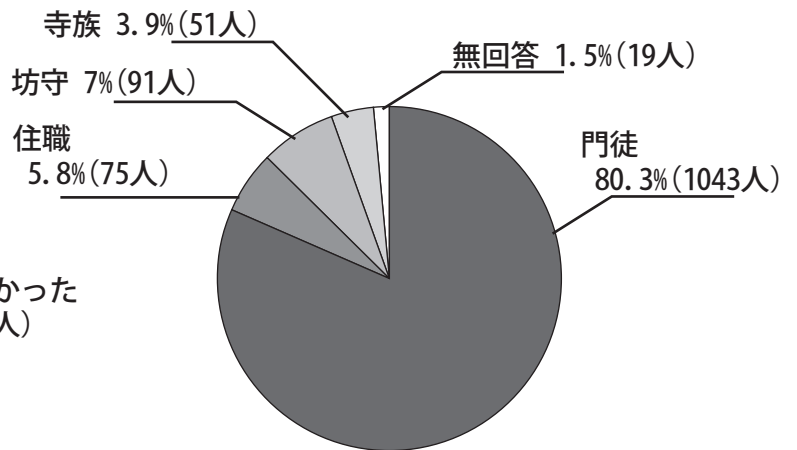
無回答 0.7%(9人)



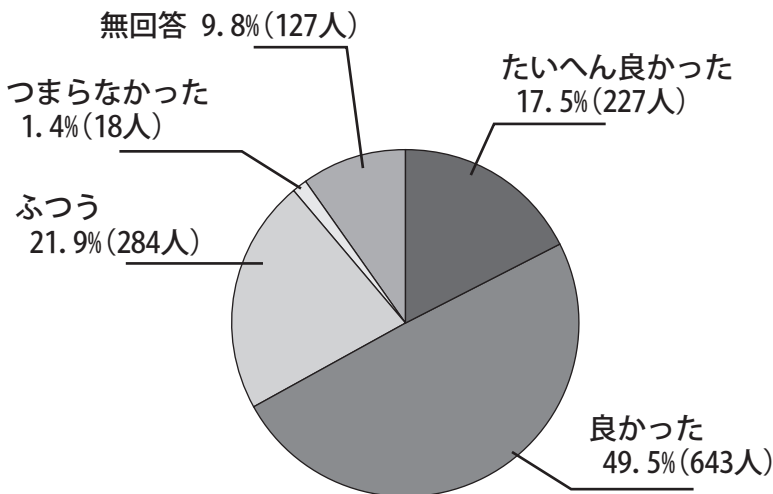
性別



年代



職分



スライド感想

教区同朋大会を通して 一寺の『教化』を見つめなおす

——真宗同朋会運動45周年を機縁として

さる5月19日、大阪国際会議場（グラン
キューブ大阪）にて、教区同朋大会が盛大

に行われた。中でも参加者の注目を集めた
のは、各組で開催されている組同朋大会を

スライドで上映されたこと
ではないだろうか。

それぞれに特色のある同
朋大会の様子を拝見するこ
とによって、「こういうこと
も出来るんや」「あんなこと
してみたい」と、今後の組
教化の一助となったように
思う。

本年は真宗同朋会運動45
周年という年である。今一
度、この教区同朋大会を通
して、同朋会運動とはどう
いうことなのかということ
を振り返ってみたい。

真宗同朋会とは、純
粋なる信仰運動であ
る。

それは従来単に門徒

と称していただけのものが、心から親
鸞聖人の教えによって信仰にめざめ、
代々檀家と言っていただけのものが、
全生活をあげて本願念仏の正信に立っ
ていただくための運動である。

その時寺がほんとうの寺となり、寺
の繁昌、一宗の繁昌となる。

然し単に一寺、一宗の繁昌のための
ものではない。

それは「人類に捧げる教団」である。
世界中の人間の真の幸福を開かんとす
る運動である。

この格調高い言葉は、1962（昭和
37）年12月号の『真宗』の巻頭言である。

この文章に触れると、そこには一寺、ある
いは一人ひとりとしての同朋会ということ
がありありと見えてくる。今日、教区また
は組として、盛大に大会が催されているが、
その根幹は一寺一寺の同朋の会が集結して
こそこの大会ではないのか。同朋会運動提唱
から45年という歳月は、私たち各寺院の教
化活動をどのように眺めてきたのだろう。

私たちにとってなくてはならないこの
『教化』ということ、現在私たちはどの
ように表現しているのだろうか。教区や組
という大きな場だけではなく、一寺が教化
の現場として、聞法の道場として、そこに
集う門徒一人ひとりが真宗に出遇っていけ
る、そんな教化活動が出来ているだろうか。

1962年の『真宗』12月号には、〈寺づ
くりと同朋会〉と題された、こんな文章も
掲載されていた。

まず、寺を信仰の道場、つまり人間
づくりの場にかえさなければなりません。
どんなささやかな寺でもただある
のではないのであります。

我々の先輩がそこで教を聞き、教に
救われ、ここに道あることを身をもつ
て伝えて来た。

〔中略〕

同朋の会が門信徒の生活の全域を法
中心の方向へ耕してゆく背景にならな
ければならぬのであります。そうでな
いと寺は建物があつても単に文化的遺
物にすぎぬことになって寺ではなく
なってしまうのであります。

この提言から、45年という歳月を経た今
日ではどうであろうか。記憶に新しいこと
として、オウム真理教信者の「お寺は風景
の一部であった」という言葉が語っている
ように、現代の一寺に息づく法の存在感は、
やはり極めて薄いようにも思える。今回の
教区同朋大会を通して、そこで見る組同朋
大会を通して、今一度、一寺一寺の同朋の
会を、『教化』を見つめなおしていきたい
と思うのである。

（廣瀬 俊）



各寺院での同朋の会への取り組み

— 寺院から組へ、組から教区へ

同朋の会紹介

19組 正受寺 松山正澄さん

同朋の会の例会は、毎月30日夜7時半から、このところ10人ぐらいで、『正信偈』を学んでいる。5月から天親菩薩のところに入ったが、はじめに『浄土論』を造られる前の『唯識』の概観を紹介した。難しいというなる方、突っ込んで問いかける方、ジーツと考えこむ方、「ここに座っているだけでありがたい」と言われる方……。反応はさまざまだが、20代から90代まで、ワイイガヤガヤ、時にはシーンと、そんな2時間の学習の場である。

30年ほど前、村特有のくせのあるお勤めが何とかきちんとお勤めできるよう声明練習会を始めた。さらに教区特伝を受けたのをきっかけに、真宗の教えを学ぶ場を持ち続けてほしいとの願いから同朋の会が発足した。そのうち、夜は足もとも悪く出にく

「同朋会運動への小さな一歩」

9組 淨圓寺 難波美千子さん

自坊では、今までとくに「同朋会運動」と銘打った行事はありませんでした。

また、毎年、初夏に行っている自坊の至徳婦人会会員の、親睦を主とした目的の日帰りバス旅行も、諸事情により参加人数も減少してきていました。

そのような中、昨秋、住職継職がありましたので、今年のバス旅行は、門徒会と合同開催にして「親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け参拝」にしてはどうでしょうかと、住職と坊守から提案しましたところ、賛同していただけました。さらに総代さんより「せっかくの上山なら、同朋会運動として帰敬式を受けられるようにしましょう!」とご提案もあり、婦人会役員さんと共に計画を立ててくださいました。当初の心配に反してたくさんの方が参加希望され、帰敬式は14人の申し込みがありました。

6月7日、予報も覆して好天気にお恵まれ、無事真宗本廟に到着。説明を受けた後、法話を聞き、短時間ですが諸殿拝観、引き続いて、厳粛な空気に包まれながら帰敬式に全員で参加しました。緊張されていた受式者の方々も式後は安堵の穏やかな笑顔を浮かべていらっしやいました。その後の御

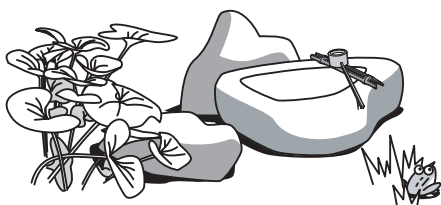
修復現場視察は、和やかな中にも本山のスタッフの方の説明を聞くにつれ、「先達の宗門への熱い思い」、「今を生きる私たちの同朋としての責任」を感じられていたようで、真剣な眼差しで口々に感動の言葉ももたらされてきました。

その後、涉成園での昼食、青蓮院の拝観とゆつくりとしたペースではありましたが盛りだくさんな内容で、全員満足してくださったと思います。

帰路のバスの中で、総代さん、婦人会役員さん、住職、坊守と挨拶しましたが、今回のバス旅行で、いっそう、宗祖親鸞聖人の教えをいただく身であることを自覚して頂き、その思いを同朋会運動の基盤にしていきたいと伝えることができたと思います。

寺族と門徒さんが共に語り、共に歩む一歩をまず、踏み出すことが大切なのではないでしょうか。

共に学び、共に歩み、朋になる人のつながりと場を生み出して輪が広がっていく、その源となっている、それが「同朋の会」、そんな気がする。



親鸞の鼓動

七百五十年の響き

五

さる2006年12月6日、藤場俊基氏（金沢教区常讀寺）をお招きし、聖典講座『教行信証』に学ぶ
を開催いたしました。その講座の抄録を「親鸞の鼓動・五」としてご紹介いたします。

承元の法難についての記録文書というのが
いくつかございまして、まずはそれをご紹介
させていただきますと、天台座主を務めた慈円
の『愚管抄』や歴代天皇のことを記している
『皇帝紀抄』、これらは弾圧した側の文書とい
うことができます。また、承元の法難と同時進行
で書かれています藤原定家の
『明月記』がござ
います。そし

「聖典講座」より

「後序」と

承元の法難

藤場俊基先生

て、法然や親鸞の弟子によって記録された文書
といたしまして浄土宗に伝わる法然上人の伝
記『圓光大師行狀画図翼賛』や覚如が著わした
『拾遺古徳伝絵詞』などがあります。『歎異抄』も
それにあたるといえます。そしてもう一つ、この
3種類に属さない、独自の性格も持つ文書が当事
者自身による記録、すなわち『教行信証』の「後
序」です。これらの文書を見比べることで、立場
の違いによってこの法難がどのように見られてい
たかということが浮き彫りになってきます。

例えば『明月記』ですと、「去ぬる比、いささ
か事故有ると云々。その事すでに軽からず。子
細をしらず。筆を染むるに及ばず」。先般いさ
さか事件があったそうで、かなり大騒ぎに
なっただけでも、私は詳しいことは知ら
ないので日記に記すこともなからうと
あつさりした内容で終わっています。

また、弾圧した側の慈円の『愚管
抄』や『皇帝紀抄』では、専修念仏
が興隆していたことに対して、念
仏者は日ごろから酒を飲んだり女

性と関係を持つなど、素行が悪いなどという記述
が見られ、妬みを買っていたと思われま。そう
いうところから、この事件も女性スキャンダルと
いう視点から記述しているのが弾圧した側の態度
です。

それでは、弾圧された側の見方の特徴は何か
といえますと、一つはこの事件は女性たちが発
心・出家したできごとであるという観点に立っ
ているということです。つまり、仏道に帰依した
のだという見方です。もう一つは『歎異抄』に
は「無実風聞」とありますが、処罰された者は本
当は無実なんだという主張です。つまり、罪はな
かったのに処罰されたということを主張している
わけです。そして、もう一つ重要な特徴は、弟子
たちの記録は処罰された者の実名を挙げています
です。つまりこれらは被害の記録になっていると
いうことです。

しかし、親鸞聖人が書かれた『教行信証』のい
わゆる「後序」には、これら文書と共通する視点
はほとんどありません。女性がらみのスキャンダ
ルだと見ていないのは当然ですが、住蓮や安樂
の名前も登場しません。彼らの個人的な不始末が
処罰されたことが問題の本質ではないということ
でしょう。また無実であつたとも言いません。具

体的名前が挙げられているのは、「太上天皇諱たじょうてんのういみな尊成たかぢ」と「今上諱きんじょういみな為仁たみひと」です。被害の記録ではなく、処罰した側の責任者を明示しているところに最大の特徴があります。「主上臣下、法に背き義に違し、忿いかりをなし怨うらみを結ぶ」と、主上も臣下も法に背いて道義に反したのだと。これは私憤です。怒りや恨みに動かされたのは彼らの方であると。それで、「真宗興隆の大祖源空法師、ならびに門徒数輩、罪科を考えず、猥たまたまりがわしく死罪に坐つみ」と、猥たまたまりがわしい処断であったといっているわけです。罪がないのに処罰されたのではなく、処罰した者たちが私憤にかられ、間違いを起こしたために、あつてはならない事件が起こってしまったのだといっているわけです。

それで、このことを考えていきますと、現在の裁判ですと三審制をとつていて地裁、高裁、最高裁で、最高裁で確定した判決をひっくり返すのは非常に大変なわけです。最高裁で確定した判決をひっくり返した例は死刑判決の中でわずか数例です。無実の罪で処分された人はたくさんいるはずで、死刑制度の持つている一番大きな問題です。現在憲法改正が目論まれています、憲法や法律は権力者から私たちがよけいな圧迫を受けないためにあるのです。法律は君主も政治家にも民衆にも同等に適用されるということが立憲制度の要です。支配者が民衆を縛るために法律があるのではなく、民衆が権力者の恣意によって不当に縛られないために法律があるのです。それが王制から立憲主義に変わっていった一番大きなことなの

です。

まがりなりにも法制度がある今日でさえ、一旦確定した判決に異議を申し立てることは容易ではありません。まして、法難の当時は、後鳥羽上皇があらゆる権力を一手に握っていたわけで、その人が下した結論に対して異議を唱える方法が処分された側にあつたでしょうか。もしあの決定は不当であつた、この道義に照らすならばあなたたちがしたことは間違いだつたと主張するためには、根拠が必要です。親鸞聖人がよるべきところは世俗の法ではなく、それは当然仏法です。

では仏教というのは誰の目にも自明のことであるのか。仏教に照らせばというときに当然処罰した側も興福寺、南都北嶺の人たちが背後についているわけです。しかもその人たちの主張が聞き入れられてあの事件が起こつたのです。弾圧した側にも仏教を名告る人たちがいて、彼らもまた仏教に照らしてその処分は妥当だと言っているわけです。そうすると仏教とはいつたかどうかという教えなのかということを確認に示さないと、この事件はあなたたちの間違いであつたとは言えないわけです。つまり親鸞聖人が法然上人から聞いた仏教とはどういう仏教であるのか、そしてそれが本当の意味で仏教といえるものであるということをお明らかにしなければこの最後の一言は言えないわけです。私は、『教行信証』はそのことを明らかにするために撰述されたのだと思います。いつたい承元の法難というのは何が問題であつたのか、そのことを単なる個人的な恨みを晴らすため

にとかではなく、それを明らかにすることがいゆる浄土の教えというものが最も明確になる道筋なんだと。そこから見ていつたときに法然上人から聞いた教えというのはどういう教えだつたのかということが明らかになっていくということが『教行信証』において私はなされているのではないかと考えています。

そのなかで、法然上人の教えと一緒に聞いた人の中でもやつぱりさまざま受け止めがなされているわけです。なぜ、同じ「ただ念仏しなさい」という教えを聞きながらバラバラになっていくのか、というようなことも「化身土巻」の重要なテーマの一つだと思えます。それは個人的な問題なのか、必然的に誰にでも起こってくる問題なのか、つまり信仰を持つものが陥っていく大きな落とし穴のようなものも親鸞聖人はきちんと見ておられます。そういうことを明らかにしていつた上で、仏教というものが我々にはたらくときにどういう具合にはたらくのかということを見ていき、そこから見ていつたときに住蓮・安樂をはじめとして死罪にしたことは、なしてはならないことであつた。あの法難は、仏教に対する大きな罪であつたと、こういうことがいえるためには仏教とはどういう教えなのかということがはっきりしなければいえないわけです。このようにどこに、『教行信証』の撰述が、「後序」と言われる、親鸞自身身に起こつた出来事の記録を語るような文章で締めくくられていくことの意味をうかがっていく上での鍵があるのではないかと思います。

(文責・しやらりん編集委員)

● ボランティア講座

「災害といのち」

講師／栗田暢之 先生

さる2007年2月22日、大阪教区ボランティア推進会議では、教区教化センター会館研修室において、「災害といのち」をテーマに阪神・淡路大震災の時には難波別院を拠点にしてボランティア活動を行った経験もあるNPO法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之氏をお招きし講座を行った。

ボランティア推進会議では、2月22日、教区教化センター会館研修室で、NPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之氏に「災害といのち」のテーマで講演していただきました。阪神・淡路大震災以後、様々な救援活動を行ってこられた経験から、私たちはこれからどのような活動をすべきか、という課題を与えていただきました。災害には関心があるが、備蓄食、住宅対策、家具止め等、具体的な行動に移っていないことなどを指摘し、平常時に何をしておくべきかを話されました。

被災したときに一番頼りになるのは、近隣地域の助け合いですが、お寺が無事なら、地域の心の防災拠点となり、悲しみ、苦しみを共有する拠り

所としての機能があるのではないかという事で、

一人ひとりのいのちや暮らしに向き合い、声が届く活動に取り組んでいくことの大切さも話されました。地域の方々との信頼関係を築き、被災された人々の気持ちが少しでもやわらぐように、お寺も機能していかなければと思いました。

(ボランティア推進会議委員／第20組・願久寺

藤園 友紀子さん)

栗田氏は現場の側から語ります。ボランティアに大切なのは相手の自主性に沿っていくこと、地域感情を知ること、住民のペースにあわせて話を聞くこと、それがないと時には迷惑ボランティアになってしまうと。

私たちに何よりも必要なことは、やはり、人と人の心を繋いでいこうとする努力、いろんな時に互いに他人の心を思い遣る気持ちなのだ気づか

されます。

災害のボランティアというと日頃つい自分からは遠いことのように感じがちです。私にはすぐに駆けつけたりも格別役に立つことも出来ないしと。しかし、他人を思い遣る気持ちを意識し続けることが私たちの中からボランティアを送り出したり、時には自らが出かけて行ったりする社会を作っていくのでしょうか。

また、災害について「もう一人のいのちは本当に救えなかったのか」と栗田氏は問います。大切なのは平常時の備え、日常の会話の中で倒れそうな家具のそばで寝ないようにと声をかける事だけでも大切なボランティアなのだ。

私たちも今一度、身の回りを見直し、声を掛け合ってみませんか。

(ボランティア推進会議委員／第22組・満泉寺

長谷 俊成さん)

【講義抄録】

私は12年前、阪神大震災の時、難波別院を救援活動のための拠点としてお借りしまして約2ヶ月間ボランティア活動を行っておりました。それ以後も相次ぐ災害での被災者支援活動を通じていろいろなことに気づかされました。

阪神大震災当時、中学校1年生だった男の子の話ですが、自分はお父さんとお母さんと妹の4人暮らしで、当時家族はなんとか無事だった。お母





さんはガタガタ震えて動けないので、妹がお母さんと車で待機していた。それでもお父さんは勇敢で、外へすぐに出て、息子の手を引っ張り、「おい行くぞ」ということでのこぎりを持って救助活動に出かけました。その子の言葉を借りると、「朝早くから夜暗くなるまで何人の人を運んだか分からない、そのうちご遺体もたくさんありました」という話です。

そういう生々しい現場の中でその男の子の幼なじみが泣きじゃくりながら「お母さんが埋まっているんだ、助けてくれ」と応援を求めてきた。お父さんと行ってみたら地域の方々で色々な作業が始まっていた。お母さんの顔は見えるんですよ。ところが引っ張ってもひっかかって取り出せな

い。そういう時に限って余震がきて、またその倒壊した家屋がグチャとなってみんなの前でお母さんが亡くなった。幼なじみは今までに出したこともないような声でギャンと泣き叫んだ。こういう現場です。

こういうことをどうやって少なくしていくのか。なくしていくのか。一人のいのちをどうやって救えばいいのかということが私たちの今後の課題だということを考えた時に、防災つていういつも水や乾パンの話になります。確かに水や乾パンも必要なんですけども、水や乾パンがなくて亡くなった方は一人もいらっしやらないということを考えて、丈夫な家に住むとか、あるいはせめて寝ている部屋には家具を置かないとか、具体的な

な行動に出ないと「かわいそうだった」で終わってしまう。そうではなく、こうした事実を我が事として学ばなければなりません。

また、ボランティアを通してこういうことも学びました。新潟県中越地震が起きました時に、ボランティアがたくさん駆けつけるわけです。そこで被災者の方々は困っておられますからボランティアはいろいろしてあげるのが、やりすぎるといえることが往々にしてあるわけです。例えば、

ボランティアセンターのコーディネーターをされていた方が、ある日避難所でこのような話を聞くのです。「あのおばあちゃん、ここに来てからだんだん歩けなくなってきた。村では草取りやご飯の支度も自分でしていたのに……」。これを聞き愕然とするわけです。自分たちは一体何をしていたのかと。私たちボランティアはおのおばあちゃんの本래の役割を奪っていたのではないかと。上げ膳据え膳するというのがボランティアではなくて、被災された方々が本来の仕事に戻り、明日からがんばろうという気持ちを引き出すのがボランティアなのではないかと反省するわけです。

一方でお寺という視点から見ますと、お寺が災害時に無事であるならば、そこに集うとか、皆で暖かいものを食べるとか、いたり合うとかこのようなことができるような気がします。お寺はやっぱ地域の救援の拠点であり、心の拠点なのではないかと思えます。悲しみとか、苦しみとか、喜びを共有する人のよりどころとしての機能はあるんじゃないかと。そのようなことを私自身が課題としておるところでございます。

(文責・しゅらりん編集委員)

栗田暢之(くりたのぶゆき)さんプロフィール

1964年10月22日生(42歳) / 岐阜県瑞穂市出身 / 名古屋市中川区在住

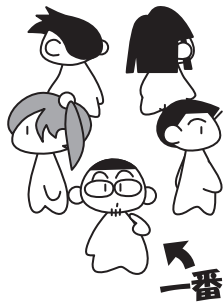
特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事



ヨッチーの やっどもたちと やっつてみよう！

～ 呼応先退ゴリンバン ～

五、六人ぐらゐまでが
ちよつどいいゲームです。
まず一番にコールする人を
決めたら、
輪になつて外側を向きます。



①手をグルグル回しながら
歌いましょう。



バンバラバンバンバン×2
バンバラバンバン×2
バンバラバンバン

②歌い終わつたら、それぞれ
立つか座るかして
かっこいいポーズを決めます。
同時に一番の人がコール！
0から参加人数(五人なら5)
までの好きな数字を選び、
その後に「リンバン」をつけま



③その数字と立っている人数が
同じなら、コールした人の勝ち。
輪を抜けます。
外れたら残ります。
そこからは①②③の繰り返し。
コールの順番は、時計回りで
代わつてね。



『たとえば、人は空を飛びたいと思う』

難病ジストニア、奇跡の克服』

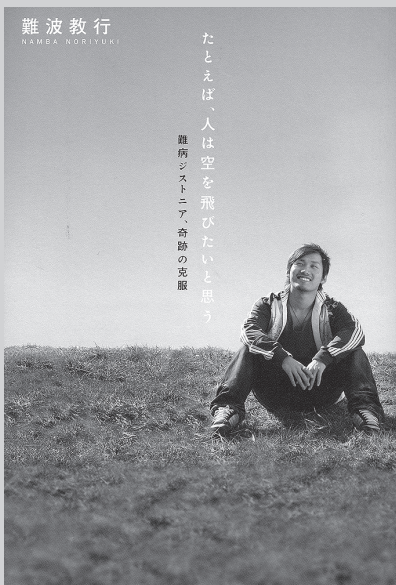
僕は大谷大学大学院に通う学生です。僕
はかつて手足が思いに反し、動き続ける「ジ
ストニア」という難病を抱えていました。
小学2年生の発病当時は、右手で字が書け
ないという症状だけでしたが、治療と裏腹
に左手、右足、首……と悪化して、高校3
年生の頃には、歩くことも、座ることも困
難になってしまいました。

もし願い事が一つ叶うとするなら、あな
たは何を願いますか？ たとえば、空を飛
べるようになることですか？ 僕の願ひ事
は「ただ歩けるようになること」でした。「歩
けるようになってどこへでも行きたい！」

そう思つて治療を続け、大学3年生の時に
受けた脳への大手術で見事大成功！ 歩け
る足、震えない手を手に入れることが出来
ました。

この本には、僕が障害者として考えてき
たこと、人に助けられる喜びと共に「当た
り前と思つているすべてのことは、実は
感謝できる素晴らしいことなんだ」という
メッセージを込めました。

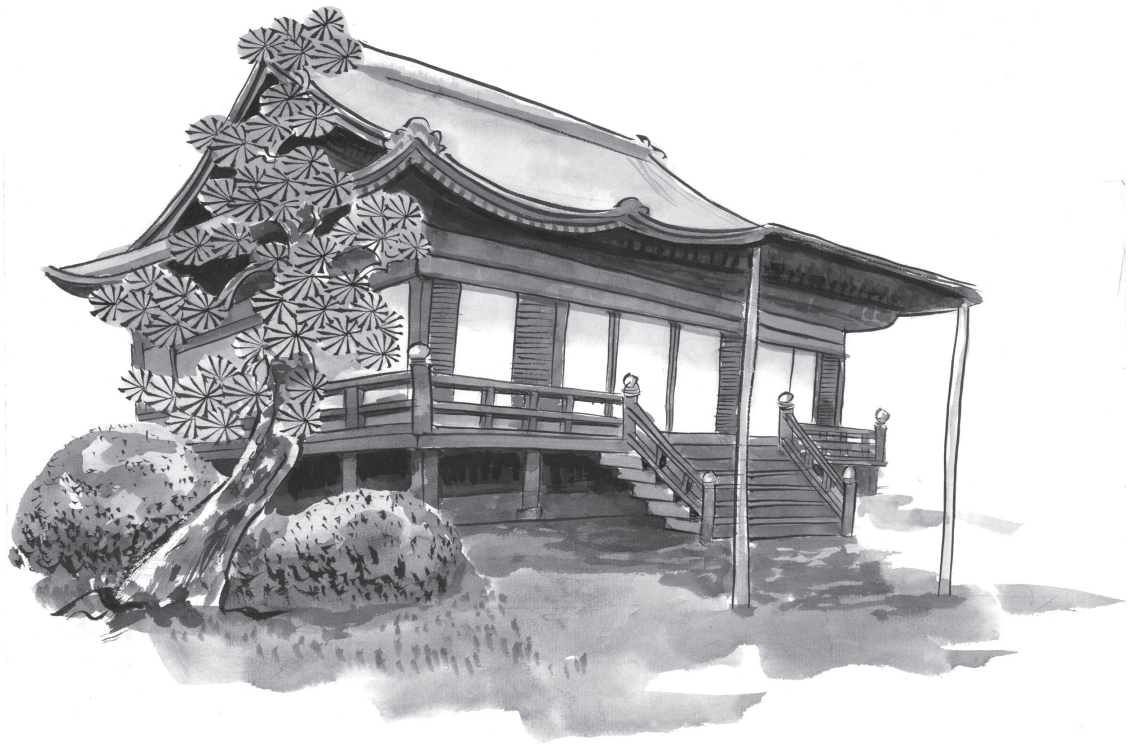
「ただ歩けるようになる」という願ひに向
かつて歩んだ医学の力、家族の愛、友達に
支えられた僕の奇跡への軌道を是非読んで
ください！



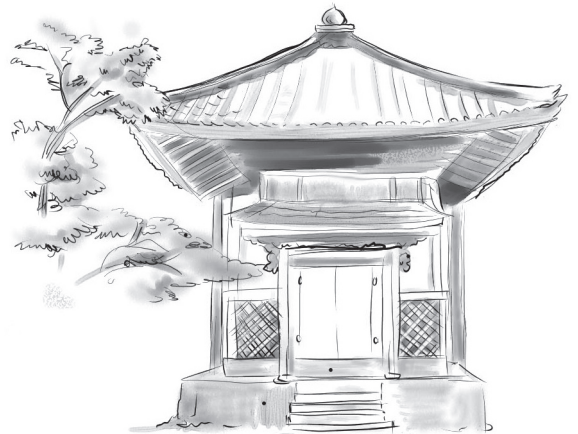
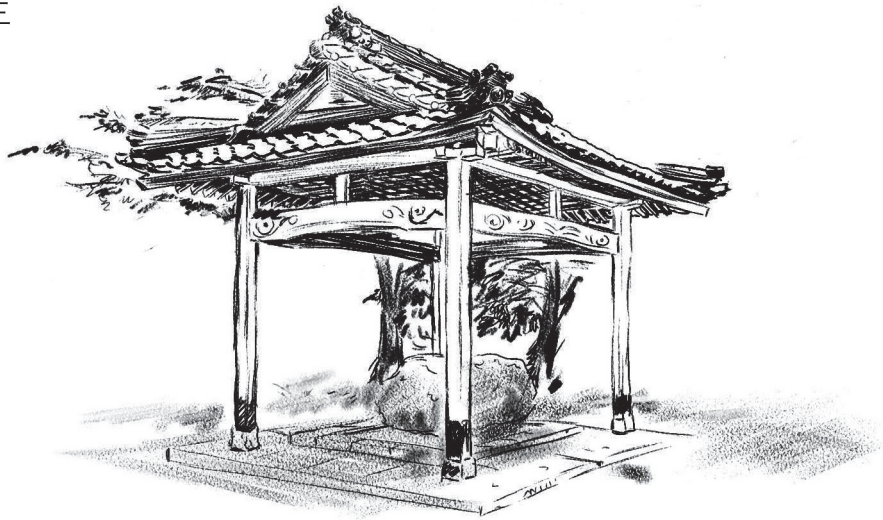
難波 教行 (第9組・浄園寺)
講談社 / 1300円
ISBN978-4-06-213923-6

アトリエしゃらりん

画・畠中晃子



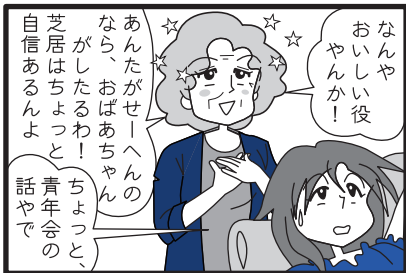
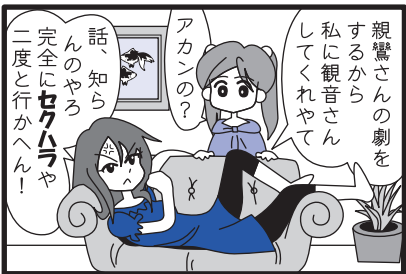
画・北川浩三



パソコン用データはこちらからダウンロード→ <http://www.icho.gr.jp/shararin/sozai/>

しゃらりんちゃん

青年会 編



煌彩酒家 燦花

SANKA

どこへ行くかも決まらないままに、散策をしながらお店を見つけることになりました。心斎橋筋からちょっと入ったところに、一見高そうなしゃれた中国料理のお店を発見。入ろうか、入るまいかと迷うが、入る決定打となったのは、「棒餃子4本+生中セットで、550円」と書いてあった店先のボード。これは、入るべきとぞろぞろと入店。店内は、いまどきの洋風ダイニングのような清潔感のある、女性好みのお店でした。



メニューの内容は、500円の棒餃子から本格派の北京ダックなど。他にもエビチリパスタや創作料理など幅広い料理が楽しめます。お味の方は、編集部の一人が「はづれがない！」というほど。また、コース料理もあり、少人数でもグループでも庶民派にも本格派にも満足できそうなお店で、まさに、かゆい所に手が届くといったような感じでした。

こちらのお店は、大阪駅前にある、「ファン・ファン」と言う中国料理のお店とグループ店で、実は店長同士は兄妹で、名物棒餃子はお母様が全て手作りされるそうです。せっかくなので紹興酒も少々いただき美味しい料理を堪能いたしました。

聞き慣れない魚の名前がありました。是非行って確かめてください。(畠中)

聞き慣れない魚の名前がありました。是非行って確かめてください。(畠中)

聞き慣れない魚の名前がありました。是非行って確かめてください。(畠中)

南御堂
心斎橋筋

[燦花 (さんか)]
大阪市中央区博労町3-2-15
TEL06-4704-6066
営業時間 ●11:30~15:00
17:30~23:30
定休日●日



■南御堂周辺のお店紹介

編集後記

◆しゃらりん14号をお届けいたします。

最近、小学校等では無理難題なクレームに少々困惑気味なようです。「うちの子は恥ずかしがり屋だから、別にトイレを作って欲しい」なんて、自分勝手にも程があると思うのですが、この親は大真面目に言っているようです。◆自分だけの都合という尺度は、ついには「いのち」も都合で捨ててゆきます。まだへその緒がある赤ちゃんが捨てられてゆくという現状は、小学校のクレーマーのような笑い事では済みません。

◆故竹中智秀先生は阿弥陀のはたらきを3つの言葉で表現されます。「えらばず・きらわず・みすてず」と。それは裏を返してみれば、私たちの現実が「えらび・きらい・みすてて」いることを物語っています。◆この現実の只中で聞法するということには、お寺に止まらず世間全体へと広がってゆくことが必要であり重要なでしょう。(H)

発行日：2007年6月30日
発行所：真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL06-6251-4720
発行人：五辻信行
編集： 第4組 常榮寺・久世見証
第9組 浄圓寺・難波美千子
第10組 是三寺・北川浩三
第12組 清澤寺・澤田 見
第17組 法観寺・廣瀬 俊
第27組 願隨寺・平野圭晋
第27組 信證寺・吉内利彦
第27組 浄宗寺・畠中晃子

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>